

事業コード	0010101	政策コード	04	政策名	秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略						
事業名	秋田犬の里魅力アップ促進事業	施策コード	01	施策名	地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化						
		指標コード	01	施策目標(指標)名	国内外からの観光客に選ばれる誘客コンテンツづくりの推進						
部局名	観光文化スポー	課室名	交通政策課	班名	調整・広域交通班	(tel)	1282	担当課長名	小松 勝統	担当者名	柿崎 浩樹
評価対象事業の内容											
1 - 1 . 事業実施の背景（施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか） インバウンドを含めた観光誘客において地域間の競争が激化する中、秋田県への誘客拡大を図るためには、他県との差別化が可能な、秋田県ならではの観光資源を活用したPRが効果的である。秋田犬は、日本では「忠犬ハチ公」のエピソードでも有名であるが、海外では、「Akita」として高い知名度を誇り、「Akita」の検索数は、「Mount Fuji」の2倍を超えている。その秋田犬を核とした観光地域づくりを進め、国内外からの誘客にフル活用することにより、外国人等の観光客に本県を訪問する動機を与え、国内外からの誘客を拡大するとともに、地域の足を支える三セク鉄道等地域交通の利活用拡大を含めた、地域の創生を図る。						5 . 前回評価における指摘事項等					
						指摘事項					
1 - 2 . 外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点 令和3年3月、秋田犬が題材の日露共同製作映画「ハチとバルマの物語」が、ロシア国内で公開され大ヒットするなど、世界的にも人気が高まる秋田犬を観光資源として生かす取組や受入態勢の整備が加速しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、県外・国外からの観光客は激減した。						指摘事項への対応					
2 . 住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの) 満足度を把握した対象 ☐ 受益者 ☒ 一般県民（時期： R03 年 08 月） 満足度の把握方法 ☒ アンケート調査 ☐ 各種委員会及び審議会 ☐ ヒアリング ☐ インターネット ☐ その他の手法（具体的に 県民意識調査） 満足度の状況 公表後把握予定						6 . 事業の内容 事業概要及び推進状況					
						・大館能代空港等を利用した旅行商品の造成支援等 ・秋田内陸線の車両の観光仕様への改修 等					
3 . 事業目的（どういう状態にしたかったのか） 海外で知名度が高い「秋田犬」を活用し、国内外からの観光客の増加や、秋田犬の里である本県の魅力アップを図る。						事業費等					
						単位（千円）					
4 . 目的達成のための方法 事業の実施主体 県及び公共交通事業者等 事業の対象者・団体 観光客及び秋田犬愛好家等 達成のための手段 秋田犬の地元の大館能代空港や秋田内陸縦貫鉄道のイメージアップや利便性向上を図るとともに、秋田犬をテーマにした観光PR・県産品販売や写真コンテスト等を実施する。						事業費等					
						単位（千円）					
						内 訳					
						当初計画事業費					
						最終事業費					
						秋田犬の里「大館能代空港いらっしやいませ」事業					
						46,635					
						65,849					
						秋田犬リムジンバス整備事業					
						9,672					
						2,672					
						秋田犬列車整備事業					
						329,038					
						240,284					
						秋田犬世界写真コンテスト開催事業					
						20,684					
						5,130					
						「秋田犬の里」首都圏キャンペーン事業 等					
						447,000					
						100,791					
						事業費計					
						853,029					
						414,726					
						財 源 内 訳					
						国 庫 補 助 金					
						426,514					
						197,518					
						県 債					
						0					
						0					
						そ の 他					
						0					
						0					
						一 般 財 源					
						426,515					
						217,208					
						当初計画及び最終の事業費比較					
						最終事業費 / 当初計画事業費 =(0.51)					

7. 事業の効果及び課題の改善状況 令和元年度までは大館能代空港の羽田線利用者数が目標を上回るなど、秋田犬の魅力を活用して国内外からの観光誘客が順調に図られた。										所管課の評価		評価結果
有効性の観点	住民満足度の状況 ○ a ○ b ○ c 【b又はcの場合の分析】 本事業は、大館能代空港の羽田線利用者数を指標として有効性の判定をしようとするものである。									○ A ● B		
	事業の効果 適用の可否 ● 可 ○ 不可 ○ a 達成率100%以上 ● b 達成率80%以上100%未満 ○ c 達成率80%未満 【b又はcの場合の理由】 令和2年度のみ新型コロナの影響で100%を達成できなかった。									○ C		
	事業の経済性の妥当性 適用の可否 ○ 可 ● 不可 ○ a 1.0～ ○ b 0.8～1.0 ○ c ～0.8 $\left(\frac{\text{事業終了後の効果}}{\text{最終事業費}} \right) / \left(\frac{\text{当初計画時の効果}}{\text{当初計画事業費}} \right) =$ 【評価への適用不可、又はb、cの場合の理由】 5カ年の事業期間において計画的かつ効率的に秋田犬列車整備等の事業内容が進捗するよう、事業者等と調整を適宜行った。									評価結果 ○ A 1.0～ ● B 0.8～1.0 ○ C ～0.8		
	効率的性の観点											
指標	指標名	大館能代空港の羽田線利用者数							指標の種類			
	指標式	大館能代空港の羽田線利用者数							● 成果指標 ○ 業績指標			
	年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ● 非該当											
	指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体			
目標a	0	0	130,000	132,000	133,000	134,000	135,000	664000				
実績b	0	0	131,517	138,584	150,570	148,761	24,170	593602				
b / a			101.2%	105%	113.2%	111%	17.9%	89.4%				
データ等の出典	大館能代空港管理事務所発表の空港利用状況											
把握する時期 ○ 当該年度中 月 ● 翌年度 04月 ○ 翌々年度 月												
指標	指標名								指標の種類			
	指標式								○ 成果指標 ○ 業績指標			
	年度別の目標値（見込まれる効果） 低減目標指標 ○ 該当 ○ 非該当											
	指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	01年度	02年度	全体			
目標a	0	0	0	0	0	0	0	0				
実績b	0	0	0	0	0	0	0	0				
a / b								0%				
データ等の出典												
把握する時期 ○ 当該年度中 月 ○ 翌年度 月 ○ 翌々年度 月												
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法												
指標を設定することが出来なかった理由												
成果（見込まれる効果）												
総合評価 ○ A（妥当性が高い） ● B（概ね妥当である） ○ C（妥当性が低い） 国の地方創生推進交付金を活用し、国内外で知名度が高い「秋田犬」の里である本県の魅力アップを図るため空港や第3セクター鉄道のイメージアップを図ることができ、最終的に当初計画事業費を下回る事業費で、大館能代空港利用者数の目標値を令和2年度を除き達成することができた。												
評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)												
政策評価委員会意見												

終了事業事後評価判定点検表

(様式5 - 1)

(1) 各評価項目の判定基準

観 点	評価項目	判定基準		配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度等の状況	a	住民満足度等を的確に把握しており、満足度も高い	2	0		A:有効性は高い (4点) B:有効性はある (1～3点) C:有効性は低い (0点)	
		b	住民満足度等を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が高くない	1				
		c	住民満足度等を把握していない	0				
	二 事業目的の達成状況	a	目標値に対する達成率が全て100%以上	2	1		1次 2次	
		b	a、c 以外の場合	1				
		c	目標値に対する達成率のいずれかが80%未満	0				
	計			4	1		B	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	a	当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値(注)が全て1.0以上	2	1		A:効率性は高い (2点) B:効率性はある (1点) C:効率性は低い (0点)	
		b	a、c 以外の場合	1				
		c	当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値のいずれかが0.8未満	0			1次 2次	
	計			2	1		B	

(注) 事業経済性の算定式

$$\left(\frac{\text{事業終了後の効果} / \text{最終事業費}}{\text{当初計画時の効果} / \text{当初計画時事業費}} \right)$$

上式で、効果とは事業の効果を把握するために設定した指標の実績値をいう。なお累積の実績値を設定している場合は、前年度からの差し引きによる「単年度増加分」を実績値として用います。

(2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判 定 基 準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	B	
B (概ね妥当である)	総合評価結果が「A」又は「C」以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		